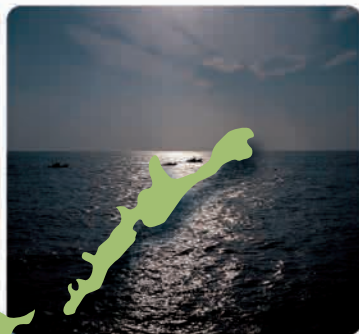




北海道で 漁師になろう

北海道漁業就業支援協議会

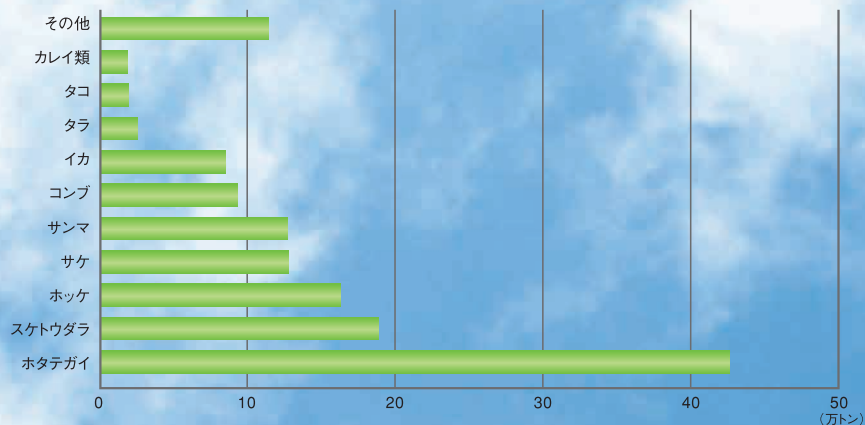
北海道の漁業

北海道は日本一長い海岸線を持ち、暖流系の対馬暖流や寒流系の親潮など分枝も含めると4つの海流が流れており、世界三大漁場の一つである日本周辺海域でも特筆すべき広大な好漁場を持っています。

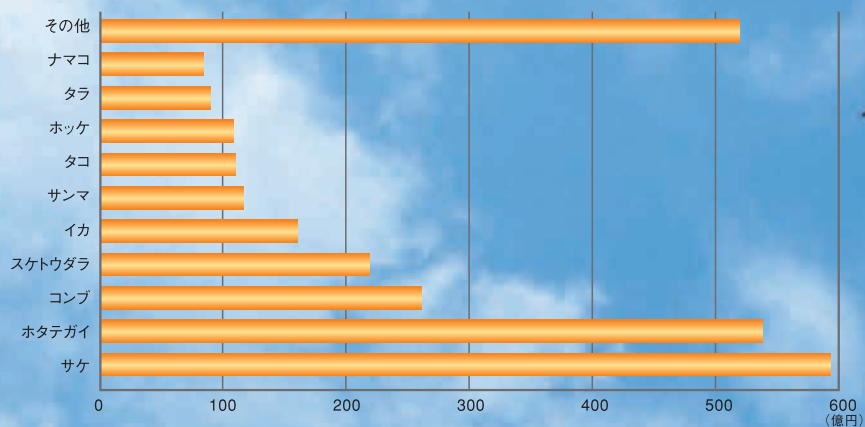
北海道の漁業生産は近年150万トン前後で推移しており、生産金額も3,000億円前後でそれぞれ全国の約25%、20%を占め第1位の地位を維持しています。これら漁業生産の多くを占めるのはホタテ、サケ、スケトウダラ、コンブ、ホッケおよびサンマであり、それぞれが北海道の代表的な魚種として全国的にも重要な魚となっています。

沿岸漁業者が漁獲している魚種としてはコンブ、タコ、ホッケ、ウニなどがありますが、近年価格の高騰とともに漁獲量が増加したナマコも重要な漁業資源となっています。

■北海道の魚種別生産量(2008年)



■北海道の魚種別生産額(2008年)



■北海道の主要魚種別操業期間

主要魚種		イワシ類		スケトウダラ		ホタテガイ		コンブ類				サンマ		サケ		カラフトマス		ホッケ		イカ類		マダラ		カレイ類		タコ類		ニシン		ウニ類		ケガニ	
主要漁法		巻網	刺し網	はえ縄	底引き	桁引網	養殖	はさみ採り等				養殖	棒受け網等		定置網	流し網	小定置	刺し網	底建網	一本釣		はえ縄刺し網	刺し網	たこ箱	刺し網	たも採り	かに籠						
主要海域		道東	羅臼	道南	全道	オホーツク	根室	噴火湾	道南	道東	日高	利礼〓宗谷	道南	道東	オホーツク	全道	日本海〓太平洋	オホーツク〓日本海	日本海	日本海	道南	日本海	日本海	全道	全道	留萌〓網走	道南	利礼	オホーツク				
月	1		↓	↓	↓		↓	↓											↑	↓	↓	↓	↑	↑		↓							
	2			↓			↓											↑	↑			↓	↑	↑		↑							
	3		↓	↓	↓														↑				↑	↑			↓						
	4				↓	↑											↑		↑				↑	↑						↑			
	5					↑	↓	↓									↓		↓			↓	↑	↑									
	6								↑	↑	↑	↑	↑	↑			↓		↑	↑	↑	↑	↑	↑		↓		↑	↑				
	7	↑							↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑			↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑		↑		↑	↑				
	8									↑	↑	↑	↑	↑	↑			↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑		↑		↑	↑				
	9				↑				↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑			↑	↑	↑	↑	↑	↑		↑		↑	↑				
	10	↓		↑												↑			↓				↓	↓									
	11		↑			↓	↑							↓	↓				↓				↑	↓	↓				↑				
	12						↑									↓			↓					↓	↓		↑						

(資料:北海道水産林務部漁業管理課)

ニシン



北海道といえばニシンと言われるくらい有名。ニシン文化は現在も生きている。100万トン程度の漁獲があったのに、全く獲れなくなったことでも有名。獲れなくなった原因は乱獲説でなく海況変化説が有力。最近では往時の系群(北海道・サハリン系)とは違う系群(石狩湾系)が石狩湾で多く獲れるようになった。現在の漁獲量は沿岸刺し網で多くて2千トン前後。

サケ(シロザケ)



北海道のサケ類の中で最も資源が大きく、最重要魚種の一つである。ほとんどが人工増殖による資源であり、天然産卵由来のものは非常に少ない。秋に定置網で15万トン前後漁獲され、大切な食材であるとともに、北海道の関連産業形成に寄与している。比較的安価な刺身の食材として今後化けるかも。

マガレイ



北海道周辺に分布し、北部日本海、オホーツク海、えりも以西太平洋が好漁場。年間3-4千トン程度の漁獲があり、沿岸刺し網の対象魚として重要。レイ類の中でも美味な種類。煮付けは最高。

カラフトマス



太平洋全体でみれば、サケ類の中で最も資源の多い種類。北海道ではサケ資源量の1/10程度。主な漁獲地はオホーツク沿岸で、隔年で豊漁を繰り返すことが多い。夏から秋に主に定置網で漁獲される。人工産卵は1億尾程度あるが、天然産卵も多い。カラフトマスは2年で成熟するため、偶数年と奇数年に帰帰する魚は遺伝的に混じり合うことはない。

エゾバフンウニ



北海道では本種とキタムラサキウニが産業種として重要。両種合わせて、たも採りや潜水漁法などにより5千トン前後の漁獲があり、全国シェアは非常に高い。典型的な採介藻漁業の対象種である。漁獲物の多くは刺身で利用される。

マダラ



冷水性のため北海道周辺に多く分布。底引き網による漁獲が多く、年間2-3万トン。鍋料理に最適だが、コンブ締め、刺身の刺身やフライの材料としても人気。干シダラも有名。タラコはマダラではなく、スケトウダラの卵巣。スケトウダラと同様に精巣はタチとして食される。

スケトウダラ



冷水性魚類で、北海道周辺に広く分布。20万トン前後の漁獲があるが、底引き網による漁獲が多く、刺し網や延縄などでも漁獲される。身はすり身の、卵はたらこの原料として有名。最近では鍋の材料としても人気がある。タチとして食される精巣は珍味。

ホタテガイ



北海道を代表する水産物。生産量も生産額も1、2を争う。噴火湾、津軽海峡、日本海では養殖が中心で、オホーツク海は増殖が中心である。生産量は40万トンを超えることも多く、一大産業を形成している。刺身、フライ、焼き、天ぷらなど多くの料理の食材として利用されており、乾物も人気がある。

スルメイカ



マイカとも呼ばれ、イカの中で最も有名。北海道各地で10万トン前後漁獲されているが、とくに渡島半島周辺、えりも以西・東太平洋、根室海峡などが主漁場となっている。函館市はイカを観光の目玉としており、産業価値も高い。スルメイカの食材としてのコストパフォーマンスは非常に高い。

リシリコンブ



リシリコンブの主産地は稚内市、利尻島および礼文島で、生産量(乾燥)は全道で1千トン前後である。養殖も数百年レベルである。コンブ類としてはマコンブ、リシリコンブ、ミツイシコンブ、ナガコンブ、オニココンブが有名だが、リシリコンブはだし汁が澄んでいて、味が上品などの特徴をもち、根強い人気がある。

ホッケ



北海道周辺に広く分布し、日本海とオホーツク海の道北で非常に多く漁獲される。まき網、定置網、刺し網、底建て網あるいは底引き網など多様な漁法により10万トン以上の漁獲があり、北海道を代表する魚類である。大型のものは開き干しに利用されることが多く、非常に美味。釣りの対象としても有名。

サンマ



外洋性の浮魚で、南北に大きく回遊する。オホーツク海と太平洋が良い漁場であるが、とくに太平洋が北海道の主漁場となっている。流し網漁業や棒受網漁業などで10万トン以上が漁獲される。塩焼きや煮付けで食されることが多いが、最近では刺身も流通して好評。

ケガニ



「北海道でケガニを食べる」は観光客の定番コース。贈答品としても人気がある。北海道のオホーツク海と太平洋に多い。ケガニで漁獲されるが、近年は2千トン程度の漁獲量にとどまっている。かなりの量がロシアから輸入されている。

ミズダコ



北海道周辺に広く分布し、最近はいさり樽流し、空釣り縄、タコ箱などの漁法により1万トン以上の漁獲がある。いさり樽流しやタコ箱漁法は経費があまりかからず、小さい船で操業可能である。本種は柔らかいため煮だこや酢だことして販売されるが、最近では活だことしての出荷も増えている。

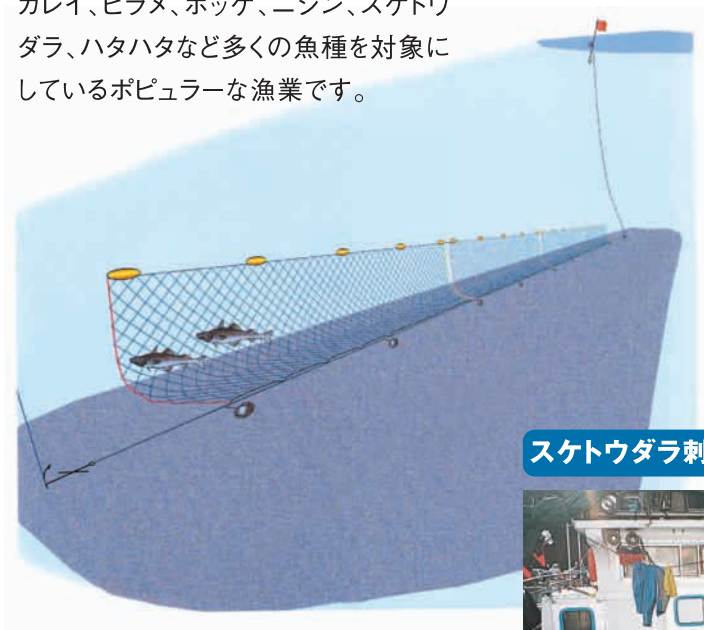
マナマコ



近年、価格の高騰により注目されている水産物。十勝・釧路を除く北海道周辺海域で3千トン弱漁獲され、主産地である宗谷、留萌地区では桁網により漁業が行われている。漁獲量は比較的安定しているが、漁獲努力の強化が影響している可能性があり、資源の減少が心配されている。珍味としてあまりにも有名。

刺し網漁業

カレイ、ヒラメ、ホッケ、ニシン、スケトウダラ、ハタハタなど多くの魚種を対象にしているポピュラーな漁業です。



ホッケ刺し網



スケトウダラ刺し網

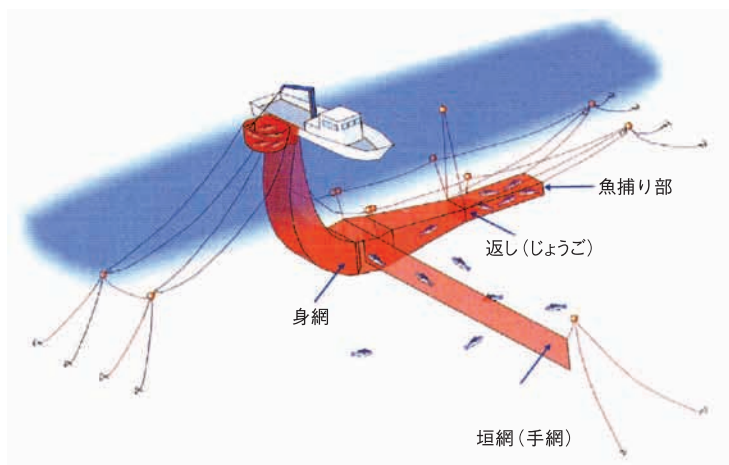


カレイ刺し網

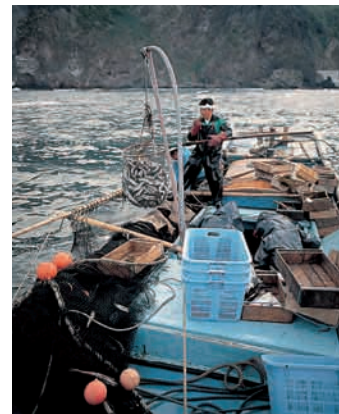


底 建 て 網 漁 業

カレイ、ヒラメ、ホッケ、イカなどを対象にしています。



ホッケ時期の操業

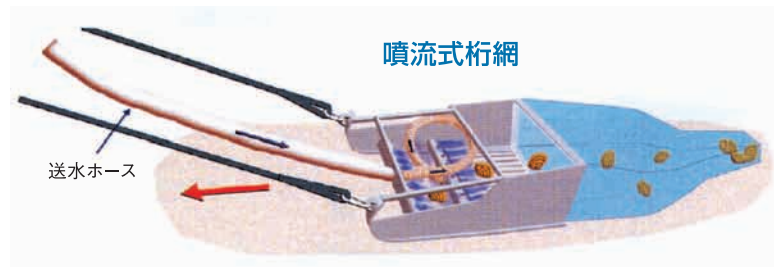


道立漁業研修所でも、ベーシックな漁業の1つとして実習します。



桁引き網漁業

ホタテガイ、ホッキ、ナマコ、シジミなどを対象とする漁業です。



ホッキ桁引き網



シジミ桁引き網



ナマコ桁引き網

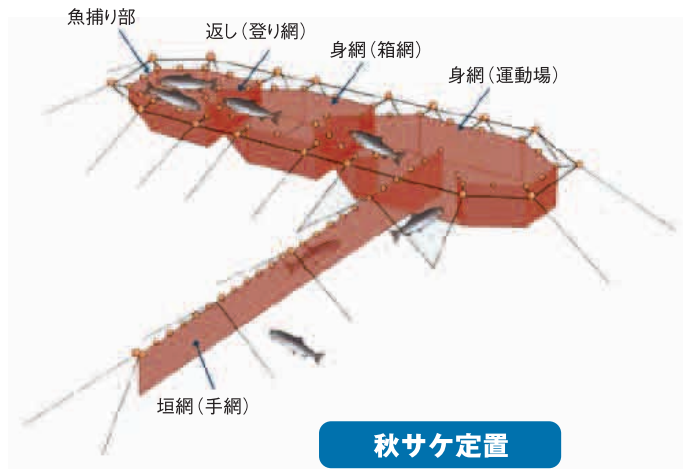


ホタテガイ桁引き網



定置網漁業

代表的なサケ・マス以外に、マグロ、イワシ、イカなども対象にしています。



秋サケ定置



マス定置



イワシの操業をする
大謀網

採介藻漁業

コンブ、ワカメ、ウニ、アワビなどを対象とする前浜漁業の基本です。

かま・まっか等



かぎ・たも



アワビ



コンブ採取

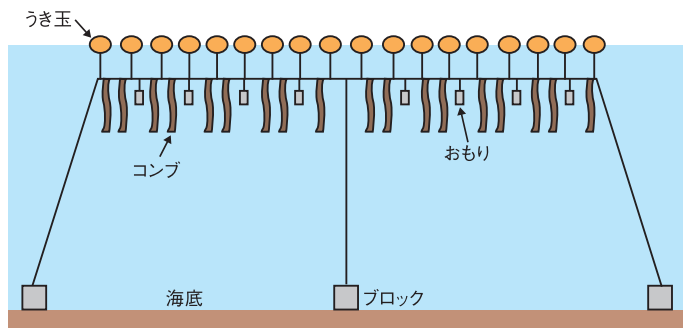


ウニ採取

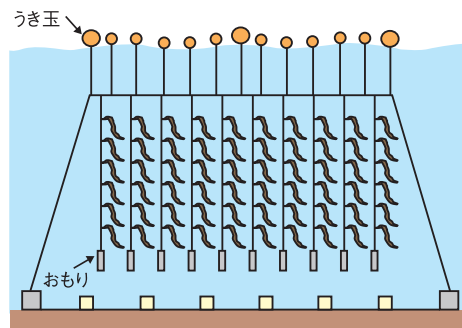


コンブ養殖漁業

昭和40年代から本格的に行われている養殖漁業です。



利尻島・礼文島のリシリコンブ養殖施設



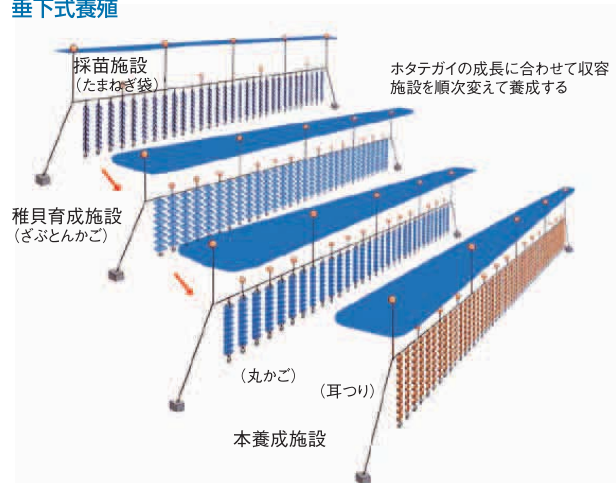
南茅部のマコンブ養殖施設



ホタテガイ養殖漁業

ホタテガイ漁業には養殖と増殖がありますが、増殖用の種苗供給も行う養殖がベースです。

垂下式養殖



耳つり



丸かご

なぜ漁師が不足するのか？

日本全体で漁業就業者数が減少傾向にあります。水産王国の北海道でも同じです。平成10年から20年の10年間に北海道の漁業経営体数は約22%も減少しています。

なぜ漁業就業者数が減少するのか？

① 資源が減少 → 漁業就業者数が減少

養殖業は別にして、資源が減少すれば、一人当たりの漁獲量が減少します。一人当たりの漁獲量の減少は個人収入の減収に直結します。その結果、経営の苦しい漁師が漁業を辞めてしまいます。

② 漁獲効率の向上 → 漁業就業者数の減少

工業などでの技術革新による生産効率の向上は、製品単価の低価格化に貢献します。低価格化は人件費の縮小により実現されることが多く、労働者の削減に繋がります。漁業においても効率の良い漁獲方法の開発により、漁師の数を減らすことができます。

③ 社会での漁業価値の低下 → 漁業就業者数の減少

この場合は、資源があっても輸入等により安い水産物が入ってきて、相対的に国内産の水産物が売れなくなったり（価格が低下したり）、国民の魚消費量が減少することにより魚が売れなくなったり（価格が低下したり）して、漁業経営が厳しくなり漁業就業者が減少します。

④ 時代のすう勢に合わない漁業 → 漁師のなり手の減少

かつて、3K職場には若い人が就職しないという現象が見られました。現在の漁師の仕事は肉体的にも精神的にもハードであり、また漁のシーズンは決まった休日もないことが多く、労働時間も長いことが通例です。さらに、生命の危険も伴う職場であることから、現在でも若い人の就業意欲が低下したままとなっています。漁師

の親が子供に漁師を継がせたくないという例もあります。さらに、魚価安等に起因する低収入もそれに拍車をかけています。

なぜ漁師が不足するのか？

資源の減少に伴う漁業就業者数の減少は漁師の不足とは言えません。漁師の不足は、獲る資源はあるのに獲る人がいない場合に起こります（養殖業の場合は作る漁場があるのに作る人がいない場合）。また、漁獲方法の効率化による漁業就業者数の減少も不足にはなりません。魚価安などの理由により漁業就業者数が減少する場合も、ある意味では不足に至りません。地域として漁師の補充意欲が低いからです。

北海道の海域は主に暖流である対馬海流が流れる日本海、寒流である親潮が流れる太平洋や冬から初春にかけて流水に覆われるオホーツク海に囲まれ、それぞれ特徴のある漁業が行われています。オホーツク海から太平洋のえりも以東までの海域は生産性が高く、平均漁業所得も非常に高い地域です。この地域では、漁業就業者の不足はほとんどありません。漁業就業者の不足が見られるのは日本海や太平洋のえりも以西の地域です。このことは漁師の不足と資源量とが密接に関係していることを示しています。

ただ、低資源量だけでは漁師の不足が起こらないことを述べましたように、その他の要因が複雑に絡み合っていることが予想されます。労働意欲を減退させる低収入（低資源や魚価安に起因）、ハードな労働、閉鎖的な社会環境あるいは低い生活環境のインフラなどが要因として考えられます。

Q₁ 独立した漁師が多い沿岸漁業とは？

- A
- 日帰りが基本の漁
 - 個人経営で10トン以下の漁船を使用
 - 地先に回遊してくる魚を漁獲
 - コンブやホタテガイなどの養殖漁業も含む

Q₂ 漁業者の数は減っているの？

- A
- 北海道の漁業経営体数は、平成10年から20年の10年間で21.9%の減少

Q₃ 漁業者の年齢構成は？

- A
- 40～59歳が41.2%で最も多く、60歳以上も32.4%を占め、超高齢化が進行中

Q₄ 組合員1人当たりの漁労生産額はどのくらい？

- A
- 平成20年の漁労生産額は1,531万円だが、海域間格差は大きく最も低い日本海地域を1とすると最も高いオホーツク海地域は3.5になる

Q₅ なぜ、漁師が減少するの？

- A
- 資源の減少
 - 危険できつい仕事
 - 定休日がない
 - 自由になる時間が少ない
 - 低収入

Q₆ 新規漁業就業者を受け入れたい地域の現状は？

- A
- 資源はあるが、いくつかの理由により担い手不足の地域
 - 低資源で漁業者が減少しているが、将来を担う人材が必要な地域
 - 資源量も漁業者数も問題ないが、高齢化のため若い漁業者が必要な地域

Q₇ 漁業者になる近道は？

- A
- 北海道漁業就業支援協議会の活用

Q₈ 北海道漁業就業支援協議会では何をやっているの？

- A
- フェアの開催（指導してくれる漁師との面談の場、年3回、札幌、函館、旭川）
 - 準備講習会の開催（漁師としての資質を自己判断）
 - 現地での長期実地研修（海上、陸上で漁師としての技術研修）
 - 資格（小型船舶操縦士など）取得への経済的支援

Q₉ 研修中の住まいは？

- A
- 受入先が相談にのり、負担軽減
 - 番屋、安い民間賃貸住宅、公営住宅など多様

Q₁₀ 研修中の生活費は？

- A
- 研修時間以外の労働に対して賃金を払うよう、協議会が指導漁業者を指導

Q₁₁ 研修修了後に就業できるの？

- A
- 組合員資格の取得可能
 - 漁業権行使の権利取得可能（漁業種による）
 - 生活費の確保（当座は独立と雇用との併用が現実的）
 - 技術の向上（親方や漁協がフォロー）
 - 就業資金の確保
 - 前記のことを地域（市町村、漁協、指導漁業者）がフォロー



「北海道で漁師になろう!」サイト

<http://h-suisankai.or.jp/enter.html>



お問い合わせ

北海道漁業就業支援協議会

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 北海道水産ビル 社団法人北海道水産会内
TEL (011) 280-3007 FAX (011) 280-3008
e-mailアドレス / fish10@h-suisankai.or.jp



<http://h-suisankai.or.jp/mobile>

提供／魚介藻類写真、漁具イラストは地方独立行政法人北海道立総合研究機構水産研究本部

※写真、イラストの無断転載を禁じます。